

令和1（2019）年度 第1回 水工学委員会および幹事会 議事録

日 時：令和1年6月6日（木）14:00～17:00

場 所：土木学会 2階 AB 会議室

出席者：清水義彦，二瓶泰雄，鼎信次郎，竹林洋史，宮本仁志，田中賢治，杉原裕司，矢野真一郎，渡邊明英，椿涼太，田中茂信，田中規夫，赤松良久，立川康人，風間聡，泉典洋，手計太一，溝口敦子，佐山敬洋，川村里実，川越清樹，芳村圭，知花武佳，浅沼順，田端幸輔，戸田祐嗣，谷口健司，武田誠，入江政安，吉田圭介，三輪浩，森脇亮，重枝未玲，森本輝，諏訪義雄，萬矢敦啓，佐藤隆宏，炭田英俊，天野光歩，片山直哉，藤原賢也，小原一哉，石徹白伸也

欠席者：中山恵介，内田龍彦，山田 朋人，梅田信，横山勝英，堀 智晴，大石 哲

記録者：武田誠（以上，敬称略）

0. 清水委員長挨拶

《報告事項》

1. 令和元年度水工学委員会構成，各委員自己紹介 資料1 p.1
 - ・議事に先立ち，清水委員長・二瓶幹事長・鼎編集幹事長ならびに全出席者より挨拶があった。また幹事長より委員構成について説明された。
 - ・資料を基に委員会内の部会，小委員会の説明があった。水理公式集編集小委員会は常置小委員会として残す形で検討する。

2. 令和元年度水工学に関する夏期研修会（9月9日(月)～9月10日(火)，名古屋工業大学） 資料2 p.5
 - ・戸田委員より準備状況が説明された。参加要請がなされた。

3. 水シンポジウム2019in滋賀（幹事長） 資料3 p.6
 - ・二瓶幹事長より，資料を基に，水シンポジウムの準備状況（実行委員会，会場，メインテーマ，プログラム，基調講演，第1・2分科会）について説明があった。
 - ・シンポ開催のための費用捻出が課題となり，民間を巻き込むなどのやり方が今後の検討課題となった（継続審議）。

4. 部会・小委員会・関連委員会の活動報告及び活動計画 資料4 p.22
 - 部 会：水文部会（資料4-1），河川部会（資料4-2），基礎水理部会（資料4-3），環境水理部会（資料4-4）
 - 常置小委員会：水害対策小委員会（資料4-5），ISO/TC113小委員会（当日資料），
 - 研究小委員会：流量観測高度化小委員会（資料4-7），グローバル気候変動適応研究推進小委員会（資料4-8），河道管理研究小委員会（資料4-9）
 - 関連委員会：CommonMP（資料4-10），流域管理と地域計画の連携（資料4-11），IAHR Japan Chapter（資料4-12），土木学会論文集編集委員会（資料4-13），河川懇談会（資料4-14），水理公式集編集小委員会（資料4-15）

各部会長，小委員長および関連委員から，各部会，各小委員会，関連委員会の活動報告と今年度の予定に関して説明があった。詳細は資料のとおりである。

5. 令和元年度の年間スケジュール 資料5 p.92
 - ・二瓶幹事長より，資料を基に年間スケジュールの説明があった。アゲールシンポはグローバル気候変動適応研究推進小委員会が新規に担当となり，河川災害シンポは水害対策小委員会が引き続き担当である。

6. 水工学委員会の活動評価

資料 6 p.93

・二瓶幹事長より、水工学委員会がAランクの評価であり、この評価に伴って調査研究費の2019年度配分額が95.3万円となったことが報告された。

7. その他

資料 7 p.95

・二瓶幹事長より、日米沿岸生態系に関する講演会（担当：横山委員）の紹介があった。

《協議事項》

1. 令和元年度第64回水工学論文集査読スケジュール・編集作業

協議資料 1 p.1

・鼎編集幹事長より、資料を基にスケジュールや投稿状況について説明があり、承認された。
・第63回アウトスタンディング・ディスカッション賞について、座長が評価した「強く推薦する」もしくは複数セッションにて「推薦する」に該当した11名が提案され、了承された。HP公表や賞状送付前に、受賞者にはメールでお知らせすることとした。また、水工学講演会の開会式などにて、本賞受賞者を公表するなどして、周知することとなった。なお、今後の本賞の選考に当たり、過去の受賞歴を考慮する必要性が指摘され、今後検討する。

2. 令和元年度第64回水工学講演会について（11月4日(月)～11月6日(水),大宮)

協議資料 2 p.8

・田中委員より、開催準備状況について説明があり、承認された。今年は、会場の都合により、開始時刻を9時30分とすることとなった。

3. 令和2年度以降の水工学講演会、夏期研修会、水シンポジウム

協議資料 3 p.20

・二瓶幹事長より、協議資料3-1を用いて、これまでの水工学講演会・夏期研修会・水シンポジウムの開催状況について説明された。

・令和2年度「第65回水工学講演会」を2020年11月4日(水)～6日(金)において富山にて開催することが提案され、承認された(協議資料3-2)。担当の手計委員より、資料を基に準備状況の説明があり、承認された。

・令和2年度「水工学に関する夏期研修会」（水工学委員会担当）に関しては、高知県で開催することが提案され、承認された(協議資料3-3)。二瓶幹事長と担当の森脇委員より、資料を基に説明され、承認された。

・令和2年度「水シンポジウム」について、2020年11月12日(木)～13日(金)に群馬県において開催することが提案され、承認された(協議資料3-4)。清水委員長より、資料を基に準備状況の説明があり、承認された。なお、水シンポジウムについては、予算だけでなく今後の運営方法について検討が必要であると指摘があった。

・令和3年度「第66回水工学講演会」については、愛媛県で開催することが提案され、承認された(担当：森脇委員)。

4. 令和3年度以降の水工学講演会のスケジュール)

協議資料 4 p.25

・二瓶幹事長より、資料を基に、令和3年度以降の水工学講演会の開催時期について説明された。現段階で、開催時期を3月から11月に移したことで、コンサルタント関係者の参加者の実数が増えたかどうかは不明であるが、コンサルタント参加者の割合は、13%（2017年11月）から19%（2018年3月）と増えたことが示された。

・開催時期について議論し、コンサルタント所属委員から3月開催の水工学講演会への参加は難しい一方、11月ごろの開催ならば参加しやすいとの意見が出された。また、11月開催の場合、河川技術論文集の締め切り日と近くなることや、会場確保の面で不確定要素があることが指摘された。以上の議論より、2021

年度（第66回）水工学講演会は11月頃の開催とすることが了承された。なお、今後も参加者の実態を把握し、2022年度以降の開催時期に関しては、継続審議することとなった。

5. 水工学論文賞・論文奨励賞の内規変更について 協議資料5 p.27
・二瓶幹事長，鼎編集幹事長より，資料を用いて内規変更が提案され，了承された。内容としては，水工学論文賞・論文奨励賞の審査を3段階から2段階に簡素化するものである。

6. 令和元年度の水工学委員会の予算について 協議資料6 p.28
・二瓶幹事長より，これまでの水工学委員会の予算状況が説明され，了承された。

7. 水工学論文集・通常号・河川技術論文集の棲み分け
・二瓶幹事長より，水工学論文集・通常号・河川技術論文集の棲み分けに関して課題が出された。今後，継続審議することとなった。

8. 水工学メーリングリストの更新，活性化
・二瓶幹事長より，水工学メーリングリストの在り方が議題として出され，今後の検討課題として了承された。

9. その他
・最近の水工学委員会の活動活発化により，土木学会事務局の負担が大きくなっているため，学会との関わり方を今後検討していくこととなった。

○水工学論文賞選考委員会報告（鼎編集幹事長）

1. 令和元年度水工学論文賞，同奨励賞候補論文について
・鼎編集幹事長より，令和元年度水工学論文賞，同奨励賞候補論文について報告があり，内規に則って，論文賞2名，奨励賞3名が定められた。

以上.